

## 絆で得たもの

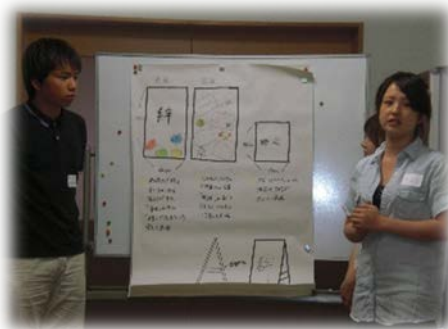
社会福祉学部社会福祉学科 2年 佐藤 穂

活動先：NPO 法人 絆

ゼミ：村上 徹也先生

私がサービスマスターングでお世話になったのは東浦町にある NPO 法人絆さん。「困ったときはお互いさまの心」と地域との繋がりを大切に活動されている。NPO とはどのような活動をしているのか、サービスマスターングとはどのようなことをするのか、未知ゆえの不安と期待、両方を抱いて初日を迎えた。活動を共にする仲間 2 人と一緒に掲げた「形に残るものを作りたい」「地域や利用者さんのニーズを把握し、活動に生かしたい」「利用者職員と一緒に絆まつりを作り上げたい」という 3 つの目標を達成すべく、約 1 2 日間という他の活動先と比べると長い期間を絆さんで過ごし、活動に励んだ。

私は、絆での経験とそこで得られた評価を通して改めて自分についての分析・理解をすることができたように思う。プラスの面では「意見や考えをまとめ、自分の言葉で発信することができる」点と「コミュニケーション力の向上」の 2 点が挙げられる。私たち学生の活動のメインとなった絆まつりに向けての準備にあたり、「私たちらしい」企画やアイデアが求められた。上記にもある目標を意識した上で私たちが提案したのは「看板作り」と「アンケート調査の実施」。これらの提案は職員会議の中でプレゼンテーションを行い、看板作成においては作成の目的やデザインの意味、アンケートにおいては実施の意義や期待できる結果などについて、自分たちの言葉を用いて考えを限られた時間の中で簡潔かつ不備のないように伝えることに努め、実現することができた。



利用者の方に対するアンケート調査はコミュニケーション能力の向上と利用者の方との関係性の構築も視野に入れて、あえて書面ではなく日常の会話の中から聞き出すという方法を選択した。最初は初対面かつ日頃交流の少ない年代の方が多かったため、どのような話題を持ち出して良いのかなど悩むこともあった。しかし日を重ねるうちに利用者の方から趣味嗜好や自分の過去について話してくれたりするようになり、それらの話の中からニーズを見出すことができ、最終的には私たち学生の名前や顔を認識してもらえるようになった。

マイナスな面としては「感情が表情に出やすい」点と「消極的な姿勢に見受けられる」点を指摘された。集団での活動故に急な変更や調整はつきものであるが、私は、自分の頭の中である程度出来上がってしまった方向性や順序を、柔軟な対応によって変更させることが苦手であり、戸惑いなどの感情が表に出やすいことがわかった。また、様々な意見やアイデアが浮かんでも、自分が率先して発言・行動することは集団行動においてマイナス要素にならないかという不安・遠慮があり、「消極的な姿勢」として周りの目に映っていることに気づいた。この活動を通して成長できたと胸を張って言える点はまだないが、ここで得た経験や評価を自信や糧へと変え、これからの実習や学校生活に生かし、成長に繋がっていききたい。



活動の中で特に印象に残っているのは役所の方の「(法や制度の中で福祉に携わる行政職をしていることによって、その活動範囲では対応できないことが存在する)もどかしさはあるよ。けど、そういった手の届かないところはこうやって NPO の方が補っている。それには感謝しているし、だからこそこういった行事などで手伝えることがあれば積極的にやらせてもらっている」という言葉。多くの地域住民を抱える行政がそのひとりひとりの細かなニーズまでもフォローすることは容易ではないため、民間の手も借りながらなんとか福祉を実践しているようだった。行政だけ、又は NPO だけでは補いきれない地域課題が存在していることに気づいたと同時に、ここに絆が理念として掲げている「困ったときはお互いさまの心で」が実現されていることを確信した。

今回の活動で大切だと感じたのは「計画性」「情報共有」「役割分担」である。ただ支持を待つのではなく自ら考えて動く、そして仲間と情報を共有し各々の個性や得意不得意なども考慮しながら適切な役割分担を行い、効率的に作業を進めていくことがスムーズな行事運営に繋がると感じた。そのためには仲間ひとりひとりに対する理解が必要不可欠である。対人援助であるソーシャルワークを学ぶ私たち、そして人と人との繋がりによって構築されている地域や社会に必要とされているのは、「相手を理解しようという気持ち」と「相手を思いやる気持ち」であるように感じる。その気持ちが備われば、互いに率先して助け合い、協力し合い、個人や地域が抱える課題を解決・改善する大きなきっかけやエネルギーになると考えられる。あくまで理想にすぎないが、いつか、少しでもこの理想に近づくことを願っている。そしてこの理想の実現が福祉の行き着く場所であってほしいと思う。